

日時：平成26年7月25日（金）14:00～15:50

場所：坂の上の雲ミュージアム 3階会議室

出席者：敬称略

- ・愛媛大学防災情報研究センター 教授（副会長）／新階 寛恭
- ・愛媛大学防災情報研究センター 助教／片岡 由香
- ・(株)伊予鉄会館 企画調査部 課長／石山 有一
- ・(株)愛媛銀行 大街道支店 支店長／大西 陽一
- ・(株)ファースト 代表取締役／日野 二郎
- ・森ビル都市企画(株) 開発企画1部リーダー／山崎 隆嗣
- ・伊予鉄道(株) 鉄道部長／中尾 均
- ・松山大街道商店街振興組合 副理事長／熊本 順
- ・松山大街道商店街振興組合 副理事長／竹内 信司
- ・大街道中央商店街振興組合 理事長／沢田 利明
- ・松山ロープウェー商店街振興組合 理事長／越智 秀二
- ・松山ロープウェー中央商店街振興組合 理事長／松浦 吉隆
- ・(株)まちづくり松山 代表取締役／加戸 慎太郎
- ・松山市障害者団体連絡協議会 会長／武智 幸男
- ・松山市高齢クラブ連合会 副会長／森 昭二
- ・特定非営利法人子育てネットワークえひめ 副代表／谷岡 加寿美
- ・国土交通省松山河川国道事務所 所長／荒瀬 美和
- ・愛媛県警察本部交通部交通規制課 課長／稲荷 聖二
- ・松山東警察署長／藤田 聡彦（代理出席：重松 真史 交通管理官）
- ・事務局／松山市都市デザイン課

1. 開会

2. 挨拶

3. 委員紹介

4. 議事

(1) 事業の概要とこれまでの経緯

【事務局説明】

市が提唱する中心市街地総合再生基本計画を基にした一番町交差点の位置づけ、これまでの歴史を読み解いた一番町交差点の特性、現況調査を基にした一番町交差点の現況と課題について説明。

昨年度行われた計4回の検討会の成果として、交差点のコンセプトを「いちばん舞台」としたこと、

およびその内容を説明。

【主な意見】 特になし

(2) 整備に関する基本方針と景観コンセプト

【事務局説明】

いちばん舞台の基本方針および実現に向けたアイデアを説明し、パースイメージを提示。
ロープウェイ通り、道後温泉周辺の景観整備を事例に、いちばん舞台の景観コンセプトについて説明。

【主な意見】

- ・ A委員
一番町交差点に今後も人を集めたいか？人を集めるという事は車を含めた移動交通手段も集まるので、集客と交通の流れは切っても切れない関係にある事を留意しておくべきである。
交差点の顔として新しいものを整備しながら現況の問題を解消していくのは難しい。例えば、今回の説明の中には現況で問題となっているタクシーの違法駐車については触れられていない。違法タクシーの解決がなければ自転車の車道通行化も難しい。路線バスのみではなく、長距離バスや観光バスも乗入れる場所である。交差点として考えるならば、すべての交通機関の動線について解決が必要である。
交通機関の転換が必要なのは確かだが、それは大街道に目的があって訪れる人に該当する。(自転車利用の) 通過者は、どのようにさばくのか。
「広場化」という考え方はよいが、イベント時に人が溜まりすぎるのではないかとの懸念がある(例：サッカーW杯時の渋谷のスクランブル交差点)。
セットバックしようとしているアーケード端部は、信号待ちの人の居場所でもある。セットバックする事で待機場所と横断歩道との距離が遠のき、青信号の点灯中に渡りきれない人が出てくる可能性がある。
待ち合わせの場所と南北をつなぐ場所を混在させると、動線が交差し、待ち合わせ場所として機能しないのではないか。待つための場所と通過するための場所は分けるべきである。
- ・ 事務局
これまでも交通の問題は多く議論されてきた。いま挙げられた課題の中で、今後解決できるものは解決していく。アーケード後退については、関係者の間でも意見が出ており、森ビルやファーストビルの1階部分にピロティを設けるなど、雨宿りスペースの創出を検討している。
- ・ B委員
一番町交差点は、17,000台/日の交通量がある。諸外国では中心市街地に一切車両を乗り入れないようにしている都市もあるが、松山での実現は難しい。仮に交差点前を1車線にするとUターン待ちが起こって渋滞を招くことになる。
一番町通りでは、松山城周辺を含む広域路線として、電線地中化に併せて景観整備が進められている(例：南堀端の石材を使用した柵など)。その流れを大事に、整備検

討を進めてほしい。

点字ブロックの黄色い色は整備後に塗装している。当時はバリアフリーの考え方が統一されていなかった。今は黄色が大前提である。

自転車については、社会実験時もそうだったが、なかなか車道側に出てくれない。路肩が狭く、交通量が多い一番町交差点において、どのように自転車を車道に出すか国道事務所でも検討している。サイクリングパークやサイン計画の整備と連動して検討すべきである。

- ・事務局
一番町通りがこれまでも景観整備を進められてきた通りであることは理解している。今回の整備に当たっては、単なる公共空間ではなく民地の利用も含まれた整備であり、官民共同でよい場所を作っていくことを大事にしたい。
車道舗装については今後も国交省と個別に議論と検討を進めていく所存だが、昨年度の検討会内容からも、舗装に色味を付ける事で印象深い景観を整備したいという地域のニーズがある事がわかっている。今日の資料にもある昨年度のパースをベースに、今後も関係者との協議を続けたい。
- ・C委員
点字ブロックに関しては、かつて県庁前の石の点字ブロックの色味が歩道舗装と似ている事でクレームがあり、やり替えに至ったことがある。同じ色のブロックでは視覚障害者にとって識別困難であるため、配慮してほしい。
伊予鉄大街道駅はバリアフリー対応となっており、車いす利用者も多く利用している。横断歩道の角度についても、車いす利用者の利便性に配慮してほしい。
- ・D委員
いちばん舞台として思い切った処置をしてほしい。車のアンダーパスを作る、タクシープールを整備する等、何らかの大きな取組みが必要と考える。
- ・事務局
短期的な視点も長期的な視点も必要であるが、まずはできる事から整備を進めていきたい。
- ・E委員
アンダーパスとするなら、高低差を処理する斜路が必要である。斜路部分は車が歩道に乗り上げられなくなる（車道から街区へのアプローチができない）ので、ひと皮沿道を設けなければいけない。インフラの調整も必要となり、莫大なコストがかかるため、部分的に車の乗り入れを徹底的に排除する等の対策の方が現実的である。
- ・F委員
30年後も「いちばん舞台」であるためにはどうするか考える必要がある。国の政策に則っていれば、中心市街地は廃れていく。責任ある決断をすべきである。ロープウェイ通りと大街道の質の違いをどのように捉えるかについても、考えるべきである。
- ・G委員
ロープウェイ商店街も、アーケード撤去時に屋根がなくなると言ってもめたが、10年経った今では、当時の反対意見で懸念していたような事態はなくなった。商店街のほとんどの人が整備をして良かったという感想である。大街道もそのようになるので

はないかと考える。

ロープウェー商店街は、10年経って舗装がガタガタになってきている。いちばん舞台の整備と併せて修繕を考えて欲しい

- ・事務局 関係部局に伝える。
- ・H委員 高校生の娘にアーケード一部撤去の話をしたところ、買い物しながら空が見えて楽しそうだと言っていた。撤去には不便さもあるかも知れないが、新しい発見や良さもあると考える。
交差点の信号待ちについては、ただ交差点を渡りたいのに、待ち合わせの人が邪魔で渡りづらいという事が以前からあった。それがアーケード後退によって改善されるのではないかと期待している。
- ・I委員 民間の立場から公共の都市整備に関わっているが、森ビルとしてはビルの1階にピロティを作り、待ち合わせや雨宿りの場所に使えるように、と検討している。
計画当初は、いちばん舞台は国道部分を含めた整備を目指していた。国道と一体で整備する事は、市や市民にとって大きく誇れる事となると考える。
道後の整備を見ると、全体的にとっても雰囲気がよく、石畳がよく効いている。松山の街の色んな場所で同じような空間が増えれば、松山全体の印象がよくなる。

(3) アーケードのデザイン

【事務局説明】

全国のアーケード事例を紹介し、今回の計画のコンセプトの説明を行った。

【主な意見】

- ・J委員 いちばん舞台（地面）とファサードが、うまくマッチするようにしていきたい。
- ・K委員 「変化を楽しむデザイン」とあるが、仮設を用いてイベント等行うならば、道路使用許可はしっかりとる事、および関係機関との調整を綿密に行う事を要望する。
広場ができて人の滞留が起こるという事は、歩道上で歩行者と自転車の衝突も起こりかねない。私有地内では歩行者>自転車、という図式が崩れる。トラブルの相談はまめに行う事を要望する。
- ・L委員 入り口部分のいちばん舞台だけではなく商店街全体に話を普及させ、整備をしていきたい。

(4) 今後の進め方について

【事務局説明】

資料を基に年度末までの事業の進め方について説明を行った。

【主な意見】

- ・特になし。

5. 閉会